（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	トータスジュニア上三川

公表日　令和　8年　4月　1日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		パーテーションなどを用いり、お子様にあった集団を形成することでうまくスペースを使えていたと思う。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		○		職員の配置数は適切であるが、男女のバランスがあまりよくないように思える。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		療育で使用しないものや、子どもたちが使わないものなどを子どもたちの見えない場所に収納し、視覚的に気になるようなものをおかないような環境	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こどもの活動に合わせた空間となっているか。	○		毎朝、清掃は行っており、きれいな状態を作れるように職員間で協力をしながら意識している。	床のマットにテープの痕が残ってしまっているので、今後、新しいマットの導入を考えていきたい。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個室には限力物はおかず、1人で落ち着ける空間を作れている。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		毎月の目標を職員同士で話し合い、目標を設定している。	
	7	保護者向け評価票により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者様の意向に耳を傾け、評価票以外にも申し送りなどで意向を把握するように務めていた。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職員会議設け、職員全体で意見を出し合い、出た意見をまとめ、実際に実施し業務改善につなげている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		現在、第三者の方に評価を行ってもらったことがないので、今後はそういった外部評価の導入を前向きに考えたい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を実施する機会が確保されているか。	○		法人内の同じ事業所で集まり、療育の運動の部分の模擬授業を行っており、質の向上に努めている。	法人内の同じ事業所の研修が年に数回なので回数を増やし、質の向上を目指したい。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援プログラムを作成し、必要な情報を公表している。	より児童発達向けプログラムを検討していきたい。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題等を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		アセスメントを適切に行い、本人・保護者様のニーズを踏まえた計画書を作成している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		ケース会議など年に1、職員全体で情報共有の場を作り、検討する時間を設けている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		計画内容は職員間で共有を行い、計画に沿った支援を行うことができる。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察などを含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により把握しているか。	○		標準化されたツールや日々の観察やフィードバックを通して、子どもの状況を随時的に把握している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な個別の課題に設定され、そのうえで、具体的な支援内容が設定されているか。	○		ガイドラインを基本に、本人支援・家族支援・移行支援・地域連携の視点を取り入れ、具体的な支援内容を設定している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		職員会議を通して職員全体で実月のレクリエーションや日課の内容を考えている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		プログラムの枠組みは同じであるが、内容の変更を1ヶ月単位で行い、固定化しないように取り組めている。	枠組みが同じなので、工夫が難しい。そのためどうしていくかが課題である。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別活動と集団行動を状況に応じて組み合わせて、児童発達支援計画書を作成し、支援を行うことができた。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打ち合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		昼寝や進行役、サブの職員などを確認する時間を設け、チームで連携し支援を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打ち合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		フィードバックの時間を設け、振り返りであったり、良かった点や修正点を話し合い、共有することができている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々の支援をきちんと記録を取り、フィードバックの際に改善点などにつなげている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的なモニタリングは実施しておりその都度、随任や保護者様のニーズを踏まえた児童発達支援計画を作成している。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況を よく理解した者が参画しているか。	○		お子様の様子がわかる職員が参加するように努めている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。		○		現時点では、十分な連携をとるための体制は作れていないが、必要に応じて体制を整えていき、今後の体制強化につなげていきたい。
	26	移行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			併用でのご利用や移行があった場合は、事業所間での情報共有はできているが、保育所や学校などとの情報共有はできていない。各学校や保育所などとの情報共有や相互理解を行うために、もう強化していきたい。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。		○		保護者を通して支援内容や情報共有はできているが、直接はできていない。今後は直接できるようにアプローチをしていきたい。
		（28～30は、センターのみ回答）				
	28	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	（幼 立 支援）協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	（31は、事業所のみ回答） 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		○		現在、定期的な連携や助言の機会は設けられていないが、今後は必要に応じて相談や研修の参加を検討していく。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○		現在、法人内の事業所との交流はあるものの、地域のお子様との交流の場は設けられていないので、今後前向きに検討をしていきたい。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎やお迎えに来られた際に、本日の活動の様子を細かくお伝えし、課題などの共有理解を図っている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等が参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		あまりできていないので、家族等の参加できる研修の機会や必要な情報提供を行っていきたい。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		体験や契約の際に、運営規定や支援プログラム、利用者負担についてきちんと説明が行われている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		計画書の作成時にはお子保護者様からのご意向を確認している。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		計画書の内容を説明し、同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		子育て等の相談に応じて面談や助言等の支援を行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい児と で交流する機会を設ける 等の支援をしているか。	○		兄弟同士の交流の場合は設けられている。	保護者同士の交流する場合は設けられていないので設けられように努めていきたい。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		子どもや保護家様からの相談や申し入れについてあった場合は、速やかに体制を整え、対応を行っている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		活動の様子を定期的にインスタグラムに掲げている。また、予定等は保護者様に直接LINEなどで連絡をしている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の管理は徹底している。	
	43	障害のあるこども や保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		特性に配慮し、分かり易い情報伝達を心掛けている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		地域住民を招いた行事等を実施していないが、、今後は地域とのつながりを意識した行事等を行っていきたい。
非常時等の対応	45	虐待防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や事業等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各マニュアルに沿って訓練を実施している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCPを策定し、年２回、避難訓練を実施し非常災害に備えている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		契約時に保護者様から確認を取っている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		食物アレルギーについては医師の指示に基づき対応をしている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を策定し、安全管理の徹底をしている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全に関する取り組みを保護者様へ周知している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットをフィードバックの際に共有し、再発防止に努めている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止のための研修を実施している。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明した 上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		身体拘束については組織的に判断し、事前説明と計画への明記を行っている。	